

NII 学術情報基盤オープンフォーラム2021 コンテンツトラック2
「次世代学術研究プラットフォームとこれからの学術情報システムの在り方」

質疑応答

2021/09/01

No.	質問	回答
1	電子リソースを含む学術情報システムの実現が、世界から20年以上遅れた原因はどこにありますか？	<p>NACSIS-CAT/ILLが安定したシステムであったこと、海外に比して国内の学術情報の電子化が進まなかったこと、利用者および図書館のシステムや制度に対する高度化の要求に応えるための図書館のリソースが年々減少していることなど、さまざまな要因が考えられます。</p> <p>また、それらが複合的に重なり合って現在があると考えます。こうした要因を確認しつつ、今後の学術情報基盤のありようをみなさんと一緒に検討していきたいと思えます。</p>
2	様々のシステムが並列に進み、進化しているように感じます。それらの関係性を整理しながら進むことも必要ではないでしょうか。各機関側は、やはりそこで、かなり混乱、悩みが生じるように感じられます。	<p>これまで、本委員会ではNACSIS-CAT/ILLと電子リソース管理システムの2つを中心に検討し、それらを中央システムと表現し、紹介してきました。今回のフォーラムでは、共同利用システムと名称を変更しましたが、その内容、およびシステムによって実現しようとする機能、サービスは変わりません。共同利用システムと表現しつつも、それを実現するためのコンポーネント（構成要素）が複数にわたることから、それぞれがなにを目指すものなのか、共同利用システムとしてなにを実現しようとしているのか、図書館はどれをどのように選んで利用するのかなど、疑問が生じているものと推察します。今後説明するにあたり、わかりやすい表現を心がけたいと思えます。</p>
3	図書館システム・ネットワーク協会に加入しない場合はNACSIS-CAT/ILLは利用できないのでしょうか？ また、電子リソース管理サービスとの連携のみを希望する場合でも、協会への加入は必要となる想定でしょうか。	<p>今回の提案では、NACSIS-CAT/ILLを利用する場合は協会への参加を必須として、電子リソース管理サービスなど一部の機能を使用する場合であっても、利用機関は協会への加入は必要といたしました。</p> <p>一方、協会員のうち一部機関が、ローカル図書館システムを共同調達・共同運用する点については、「共同利用システムとメンバーシップ：共同利用のための新たな連携」スライド7枚目にあるとおり任意です。</p> <p>今後、利用機関や関係組織からご意見を伺い、今回の提案を調整したり、見直したりする予定です。</p>
4	図書館システム・ネットワーク協会の年会費はどのくらいを想定していますでしょうか？ 機関規模によって会費の額は変わるのでしょうか？おおよそでよいのでご教示ください。	<p>今回の提案では、協会を運営するための事務経費とシステムを運用するためのシステム経費の2種類を会費として想定し、詳細は会員館間の話し合いによる、としました。今後、利用機関や関係組織からのご意見を伺い、今回の提案を調整したり、見直したりする予定です。</p>

NII 学術情報基盤オープンフォーラム2021 コンテンツトラック2
「次世代学術研究プラットフォームとこれからの学術情報システムの在り方」

質疑応答

2021/09/01

No.	質問	回答
5	図書館システム・ネットワーク協会に加わることによる中小規模館のメリットは何でしょうか。	中小規模図書館にとってはローカル図書館システムの共同調達・共同運用といった手法は将来的に有効になってくるのではないかと考えています。協会というコミュニティに対してベンダーが提案してくるシステムを共同で検討してシステムの調達費用を適切なものにすることができたり、他大学の業務を知ることで効率化を行ったり人材育成につながるといったメリットもあると思います。コミュニティでの話し合いで会費も設定しますので、適切な範囲になるであろうと想定した提案です。今後、利用機関や関係組織からご意見を伺い、今回の提案を調整したり、見直したりする予定です。
6	これから委員会が実施したアンケートの結果をみたところ、ローカル図書館システムの共同調達に期待する機能については、いずれの機能も3割程度の期待と見受けられました。そもそも共同調達・共同運用が必要なのでしょうか。	ローカル図書館システムの共同調達は全機関の参加を必須とするものではなく、必要な機関が集まって行うことを想定しています。自由記述のコメントでは、複数機関から共同調達を期待しているとの回答もいただきました。
7	JPCOARやJUSTICEのようなコミュニティモデルに、NACSIS-CAT/ILLもなるのでしょうか。 現在も事務局員の確保に苦慮しているかと思えますし、もしそうだとすると、なかなか大変そうです。連携組織を統合して事務の効率化を図るとか、どこかの大学が事務局業務を引き受けるといったモデルは可能でしょうか？	JUSTICEやJPCOARを長短両面で参考にしながら、今後、「共同利用システム」運用にあった仕組みを利用機関や関係組織からのご意見を伺って構築していく予定です。
8	相原様のお話であれば、まずはNIIやこれから委員会様、もしくは国公私などの中で、なんらかの意見交換ができる場（掲示板などでもよいですが）があればよいのではないのでしょうか。やはり、協会としての設置が必要なのではないのでしょうか。	協会とするかより緩やかな形をとるか選択肢はあると思いますが、今回の提案では、大学等の現行の組織運営を考慮し、利用機関が活動しやすいオフィシャルな組織体を示しました。今後、利用機関や関係組織からご意見を伺い、今回の提案を調整したり、見直したりする予定です。
9	図書館システムの共同調達において、財務会計システムとの連携部分に関してはどのような形になるとお考えでしょうか。	ローカル図書館システムの共同調達、運用については、図書館システムを複数の機関で調達すると費用が抑えられるのではないかと想定ですが、各々の図書館で財務会計システム等に接続しているので、各大学で検討すべき点が残るかとは思いますが。

NII 学術情報基盤オープンフォーラム2021 コンテンツトラック2
「次世代学術研究プラットフォームとこれからの学術情報システムの在り方」

質疑応答

2021/09/01

No.	質問	回答
10	<p>全面業務委託のため、コミュニティに人を出すことができません。会費を出すだけで参加することで良いのでしょうか。</p>	<p>コミュニティへの関与には様々な方法があると考えており、今回の提案では、協会の意思決定や意見照会（アンケート等）には、どの機関も参加していただくことを想定しています。今後、利用機関や関係組織からご意見を伺い、今回の提案を調整したり、見直したりする予定です。</p>
11	<p>「図書館システムネットワーク協会」の賛助会員とは、具体的にどこまでの範囲となるのでしょうか。また、加入の要件等はございますか。</p>	<p>出版社やシステムベンダー、データプロバイダー、その他学術情報に関係する組織を想定しています。要件については、今後、会員の話し合いで決めていくことを想定しています。</p>
12	<p>今回の話では参加館＝大学という考えのように感じました。大学（短大、高専）以外の参加機関についてはどのように考えているのでしょうか。（システム更新さえ難しく、また職員も正規ではない1人職場が多数あります）</p>	<p>機関の種別に拘わらない提案をしております。大学であっても担当者が一人であったりシステム更新ができない機関も多数あると聞いております。そもそもそのような状況においても30年以上前のシステムを使い続ける必要があるか、負担軽減の方策はないか等共有できる課題は多いと考えます。</p>
13	<p>RDAについて言及されていましたが、これから委員会資料を拝見すると、NCR2018の適用細則のことはできていても、RDAに関するタスクは全く見つけられません。具体的なプランはあるのでしょうか？あるいは単に「可能性」だけのお話でしょうか？</p>	<p>RDAに関しては、ご指摘の通り「可能性」の指摘を行ったものです。しかし、今後検討を行うべき課題であるとは認識しております。</p>
14	<p>細かいことで恐縮ですが、CATP特有のVOL積み書誌（CAT2020以前の既存VOL積み書誌）は、MARC21で表現可能なのでしょうか。</p>	<p>既存のVOL積み書誌であってもMARC21で表現することは可能となっております。</p>
15	<p>「高水準」な目録データとは、どのようなデータとお考えでしょうか？RDAやNCR2018、またBIBFRAME形式への対応を想定するとなると、FRBRの考えが反映されたデータとなることが求められるように思います。そういったデータをOpenBDのデータに期待すると考えてもよろしいのでしょうか？</p>	<p>高水準な目録となるとFRBRの考え方が反映されたデータになるのはご指摘のとおりだと思います。ただ、OpenBDについて考えますと出版流通系のデータからいきなりFRBR化を実現するのは難しいように思います。これを解決するために、出版社との話し合いを繰り返すことで高品質なデータを目指していきたいと考えます。こういった高品質かつ国外の仕様に合わせたデータが流通することは、海外における日本の学術情報の可視化につながると考えています。</p>

NII 学術情報基盤オープンフォーラム2021 コンテンツトラック2
「次世代学術研究プラットフォームとこれからの学術情報システムの在り方」

質疑応答

2021/09/01

No.	質問	回答
16	<p>1年前のフォーラムでAlmaに直接登録してデジタルアーカイブを扱えるとの話があったかと思いますが、新共同調達システムではデジタルアーカイブはどのように扱われる御予定でしょうか？</p>	<p>今回NIIが整備する「共同利用システム」の範囲は、デジタルアーカイブ機能にフォーカスしたものとなっております。しかし、今後検討を行うローカル図書館システムの「共同調達・運用」において、Almaが対象となるようなことがありましたら、その機能の一つとして導入・利用できる可能性はあると考えます。</p>
17	<p>図書館の図書・雑誌と電子リソースを想定されているようですが、貴重資料や古文書等のアーカイブ資料も、図書館システム・ネットワークで扱うことを予定していますでしょうか？機関リポジトリとの棲み分けなど、もしありましたら、お教えてください。</p>	<p>今回の「共同利用システム」の整備範囲は、デジタルアーカイブ機能にフォーカスしたものとなっておりますが、今後の「共同利用システム」の機能として、各大学図書館のデジタルアーカイブのデータを集約するといった機能を持たせることができないか、検討を進めております。また機関リポジトリとの棲み分けについては、現段階で明確な基準を有してはおりませんが、今後、調整を行うべき課題であると認識しております。</p>
18	<p>共同利用システム（現在のNACSIS-CAT/ILL）の維持のために、今後、利用機関からのコスト負担が必要となるのでしょうか？</p>	<p>教育・研究DX推進等の新たな状況のなかで、国立情報学研究所での印刷体を中心とした目録所在情報サービスの予算継続は困難な状況にあります。そのため、サービス継続のためには、本委員会で検討している電子リソースも含めた幅広い学術情報への対応や、大学図書館等からの必要性による裏付けが不可欠となっています。</p> <p>図書館システム・ネットワーク協会（仮称）の提案は、共同利用システム（現在のNACSIS-CAT/ILL）と各図書館が運用する図書館システムを一体と捉え、これを維持・発展させるための一つの方策になります。共同利用システム（現在のNACSIS-CAT/ILL）の利用機関によるコスト負担については、国立情報学研究所の状況や参加機関からのご意見を踏まえ、今後決定したいと考えています。</p>

NII 学術情報基盤オープンフォーラム2021 コンテンツトラック2
「次世代学術研究プラットフォームとこれからの学術情報システムの在り方」

質疑応答

2021/09/01

No.	質問	回答
19	<p>NACSIS-CAT/ILLの新システムでは、書誌フォーマットはMARC21となるのでしょうか。MARC21に準拠することが重要であるという根拠が曖昧に感じました。また、Ex LibrisのAlmaや海外の図書館システムから、今後NACSIS-CAT/ILLとMARC21ベースでデータのやり取りが可能になるのでしょうか？</p>	<p>システム内部で管理されるメタデータは、国際目録形式であるMARC21とも互換性があるものとなります。MARC21は国際的には数多くの国レベルの図書館やコンソーシアムで採用され、また海外の多くの出版社のメタデータ提供フォーマットとして利用されるなど、現在のところデファクトスタンダードであり、互換性をもたせることについて、当面の選択肢として妥当であると考えております。</p> <p>各図書館からの接続形式に関しては、2023年冬の運用開始時点では、従来の形式（CATP）で動作するものを想定しています。海外の図書館システムからのMARC21によるデータ更新については、各図書館からの要望をもとに、運用開始後に検討いたします。なお、Ex LibrisのAlmaについては、CATP対応（書誌、所蔵、ILL）の計画があるようです。</p>
20	<p>もし一部の館のみが新システムに乗り換える場合、従来通りCAT-Pで書誌を作成し続ける館と、新しい書誌フォーマットで書誌を作成する館が並存することになるのでしょうか。その場合、全参加館が同一のコーディングマニュアルに従って作業をすることは可能なのでしょうか。</p>	<p>CATPおよび従来の目録規則は当面維持されますので、館ごとの書誌フォーマット並存は生じない見込みです。</p> <p>将来的に、目録規則を変更を行う場合や、MARC21などCATP以外の形式でのデータ登録にも対応する場合は、全参加機関に対し、十分な期間を設けてアナウンスを行います。</p>
21	<p>新NACSIS-CAT/ILLが準拠する目録規則は、変更されますか？ 変更される場合、コーディングマニュアルの修正は予定されていますか？</p>	<p>2022年度システム更新時には、現行通り日本目録規則1987年版、英米目録規則第2版を維持します。</p> <p>ただし、システムワークフロー検討作業部会で、今後日本目録規則2018年版対応等の検討を行う予定でおります。今後こうした変更を行う場合は、コーディングマニュアルの修正も併せて行います。</p>
22	<p>新NACSIS-CAT/ILLへの切り替え時に、システムが停止する予定はありますか？</p>	<p>今回のシステム移行は、NACSIS-CAT/ILLのサービス開始以降初めて、内部のデータ構造の変更を伴うものとなります。保有するすべてのレコード（書誌1,200万件、所蔵1,4億件、典拠1,800万件等）のデータ移行を確実に実施するため、移行期間は現在のところ2週間程度を見込んでいます。詳細については、決まり次第お知らせいたします。</p>

NII 学術情報基盤オープンフォーラム2021 コンテンツトラック2
「次世代学術研究プラットフォームとこれからの学術情報システムの在り方」

質疑応答

2021/09/01

No.	質問	回答
23	電子リソース管理サービスでダウンロードできるデータの仕様は、いつごろ公開される予定でしょうか？ また、それに対して参加（予定）機関からの意見を募る予定はございますでしょうか？	電子リソース管理サービスでダウンロードできるデータ形式については、これから委員会が実施する「JUSTICE提案書情報のデータ共有に関する実証実験」において、検討を行ってまいりました。この内容については、2022年春の運用開始に向けて情報を整え、広く公開していきたいと考えています。
24	Ex Libris製品を導入していない機関が、JUSTICEを介さずに契約している電子ジャーナルのリソースを図書館システムに取り込む方法について、具体的に何かお考えがありますでしょうか？図書館職員が個別に照会し、必要な項目を入力するような運用では、導入・運用できるのか？かなり不安です。	例えば電子ジャーナルのAtoZやリンクリゾルバを導入している機関では、これらのシステムを提供するベンダーを経由して、共有するデータを利用する仕組みを整備したいと考えています。またこうしたツールを利用せず、エクセルファイル等を図書館システムにアップロードし、OPACに表示させることも考えられます。こうした機能については、これから委員会が実施する「JUSTICE提案書情報のデータ共有に関する実証実験」において検証を行っており、様々な機関において活用いただけるサービスにしたいと考えています。
25	現在、SFXリンクリゾルバを契約していますが、電子リソース管理サービスを利用すれば、SFXリンクリゾルバは、必要ないと単純に考えてよいのでしょうか。	電子リソース管理サービスは、「JUSTICEに提出された電子リソース製品のうち、利用条件（ライセンス）やタイトルリスト等、共通性の高いデータを蓄積し、各図書館とのデータ共有を行うもので、各図書館が利用するシステムを提供するものではありません。 一方、これからの学術情報システム構築検討委員会では、図書館システムの共同調達・運用の検討を行っており、この枠組みでEx Libris Almaのような図書館サービスプラットフォームの共同調達・運用が実現した際は、360 LinkやSFX等のリンクリゾルバ機能も含まれます。なお、Ex Libris Almaは、単館での導入も可能です。
26	電子リソース管理サービスについて、現状、ExLibris社の製品を利用している場合のメリットが非常に多いように感じております。既存の国内の各種システムへどのように適用できるか、国内ベンダーとの情報共有などは進んでいるのでしょうか。	システム間連携ということでAlmaの機関ゾーンとの連携は考えていきたいが、基本的なサービスとしてこれまでWordやPDFで提供されていた情報を「データ」として提供することを重要視しています。タイトルリストやライセンス情報を国内で同一のデータ形式で提供することで、国内の既存図書館システムにおいても、OPACへの表示や、管理用に利用することが可能となると考えています。
27	図書館システムの変更はないとのことでしたが、書誌番号体系が変わったら図書館システムにも影響あるのではないのでしょうか？CAT2020のときは影響ありましたが。	番号体系が変更になるということは、番号の枯渇などこれまでも生じていた事象なので、なるべく早めにアナウンスすることでご対応いただけるように進めていきます。

NII 学術情報基盤オープンフォーラム2021 コンテンツトラック2
「次世代学術研究プラットフォームとこれからの学術情報システムの在り方」

質疑応答

2021/09/01

No.	質問	回答
28	<p>「共同利用システムとしての目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）再構築」のお話から、システム更新の方針（2023年冬公開予定）について、各館図書館システムの側での変更は基本的に必要がないと考えてよいのでしょうか。ちょうど2023年度に図書館システム更新があるため考慮すべきことが気になります。</p>	<p>新NACSIS-CAT/ILLについては、現在の図書館システムの変更を伴わないよう準備を進めておりますので、基本的に各図書館でのシステム変更は必要ありません。</p> <p>電子リソース管理サービスは、現在のところ「データ共有サービス」を想定しており、システム上の劇的な機能の変更というよりは、ライセンスやタイトルリストのデータ一括整備・提供を行うことを想定しています。今後、共有するデータの内容や形式については、随時情報を整えて公開いたしますので、その中で図書館でどのようなサービスができるか検討いただければと思います。</p>
29	<p>図書館システムの共同調達というのは、OCLC CBSをローカル図書館システムとして共同利用するというイメージでしょうか？</p>	<p>今回NIIが調達したOCLC社製CBSやExLibris社製Almaは、現行のNACSIS-CAT/ILLの後継となる「共同利用システム」です。</p> <p>「ローカル図書館システムの共同調達」は、「共同利用システム」とは別に、コミュニティがそれぞれ最適なローカル図書館システムを選択し、共同調達・運用を行うことを想定しています。</p>